

音楽を愛好する心を育てる音楽科の指導
ー学ぶ楽しさを実感できる授業への改善を通してー

峰村 美智子

1 研究テーマ設定の趣旨

本校音楽科は、かねてより必修授業や選択授業のなかで音楽の楽しさを味わわせながら、日常的に音楽に親しもうとする生徒の育成に努めてきた。

平成10年度からは、音楽科の授業が音楽における生涯学習の一端を担って、生涯にわたって音楽を愛好していく生徒の育成を図るために、「音楽を愛好する心を育てること」を研究目標とし、研究テーマ「音楽を愛好する心を育てる音楽科の指導」を設定してきた。また、サブテーマを設け、研究目標達成のための具体策のひとつとしてきた。そこでは、「課題学習」や「鑑賞を表現に生かす工夫」を通して研究目標に迫ろうとしてきた。

「課題学習」においては、音楽における学習スキルを学ばせるとともに、生徒が主体的に基礎・基本を身に付けようとする態度を養いながら、音楽を愛好する心をはぐくんだ。特に、個々の興味・関心に基づく課題学習において、生徒は大変意欲的に活動し、主体的にその基礎・基本を探り、学び、習得しようとした。人は、興味・関心のあることに関してどん欲になり、すばらしい力を発揮するものだと感じた。

「鑑賞を表現に生かす工夫」においては、音楽を愛好する心を育てるには、音楽的感性をはぐくむことが肝心であると考え、そのために、良い音楽の鑑賞と、鑑賞で培われた感性と表現することの関わりで、さらに豊かな音楽的感性になっていくことを実証しようとした。この結果、まさに良い音楽は生徒の心に響き、その後の表現活動にも生かされていた。

さて今回、本校共同研究全体テーマが『「確かな学力」を身に付けさせる学習指導の在り方ー学ぶ楽しさを実感できる授業への改善を通してー』に設定され、「学ぼうとする力」（意欲・態度）に視点を当て、各教科の授業改善を行うこととなった。つまり、授業改善の手だてとして、学習意欲に関わる学ぶ楽しさに着目して生徒の「学ぼうとする力」をはぐくんでいこうとするのである。

なお、アンケート調査により、音楽の楽しみ方は十人十色であるが、生徒が音楽が好きだと感じている。そこで、音楽を学ぶ楽しさを実感させるために、個を生かした授業を構築するとともに、多様なそれぞれの音楽のよさを味わわせて、音楽活動に取り組む意欲を高め、なお一層広く深く音楽を愛好する心をはぐくんでいきたいと考えている。

このような理由から、本校音楽科は、音楽科の継続研究目標として、今年度も研究テ

マ「音楽を愛好する心を育てる音楽科の指導」を設定し、さらにサブテーマー学ぶ楽しさを実感できる授業への改善を通してーを設けて、生徒の「音楽を学ぶ楽しさ」を喚起させ、さらなる関心・意欲・態度の向上を図ろうと考え、研究を重ねてきた。

2 研究計画

1 第1年次

- (1) 音楽における学力および楽しさの捉え方
- (2) 学ぶ楽しさを実感できる授業改善の手だての検討

2 第2年次（本年度）

- (1) 学ぶ楽しさを実感できる授業改善の手だての試行
- (2) 授業改善による生徒の変容調査と検証

3 第3年次

- (1) 確かな学力を高めることができたかどうかの検証
- (2) 研究のまとめと今後の課題

3 前年度の研究内容

1 生徒の実態

(1) 音楽に対する関心について

本校生徒の音楽に対する関心は高い。何らかの楽器の経験を持つ生徒が多く、女子は約7割程度の生徒がピアノやその他の楽器を習ったことがある。男子でも簡単な旋律ならば弾ける生徒が多いが、技能の差は大きい。バイオリン等の弦楽器を習っている生徒も各学級に数人いる。家庭における音楽的環境にも恵まれていると思われるが、歌唱、器楽、鑑賞ともに多くの生徒が関心を示している。歌唱は、やや学年差が感じられるが、声の安定とともに学年が進むにつれ、興味・関心が高まる傾向にある。そこで、生徒の音楽に対する興味・関心を高めさせる手だてとして、音楽室に設置してある数台のピアノやギター等は、休み時間も解放しており、生徒は自由に弾くことができるようにしている。

(2) 音楽を学ぼうとする意欲について

個人的に興味を持った音楽については、授業時以外でも、学校での余暇の時間や家庭生活等の中で楽しもうとしている。授業においては、教材によって様々な反応を示すので、教師側の教材の開発や工夫が求められる。器楽学習においては、鍵盤楽器やリズム楽器及びギター等の学習に意欲的である。合唱活動は、どちらかというと女子の方が意欲が高い。鑑賞は多くの生徒が好んでおり、多種多様な鑑賞教材を用意し、提供している。また、創作に関しては、音楽活動の中で編曲させたり、即興的な表現をさせたりしながら、創作意欲を高めている。

2 音楽における学力および楽しさの捉え方

(1) 音楽における学力の捉え方

本校音楽科では、音楽における学力を、「音楽を愛好する心情」と「音楽の諸要素を感受する能力（基礎的な能力）」と捉え、研究に取り組んでいる。そこで、「学ぼうとする力」（音楽への関心・意欲・態度）や「学ぶ力」（表現の技能・音楽的な感受や表現の工夫・鑑賞の能力）が高まれば、自然と「学んだ力」が付き、音楽における学力が形成され则认为た。「学ぶ力」や「学ぼうとする力」は学習指導をする中で見えるもので、これらを重視し、個を生かした表現の工夫を互いに認め合える場を設けたり、自己評価や相互評価を行っている。さらに、学ぶ楽しさを実感できる授業を通して、音楽が人にもたらし感情の動きを知り、多様な音楽を味わうことで、「学ぼうとする力」が持続できるようにしていきたいと考える。

(2) 音楽における「楽しさ」と「学ぶ楽しさ」の捉え方

ア 音楽における「楽しさ」について

音楽における「楽しさ」とは、音や音楽に触れたときの心が揺さぶられる感覚であろうか。また、音や音楽に触れるということは、音や音楽をイメージしたり、聴いたり、表現したりすることである。そのような活動の最中に心が揺さぶられる気持ちがわき起こり「楽しさ」となる。

気持ちが揺さぶられる音や音楽は、狭い意味での喜劇的な題材の楽しみに限定するものではなく、「楽しさ」は、安易な精神的な快楽のみによって成立するものではないと考える。

イ 音楽における学ぶ楽しさについて

音楽は人の心を潤し、豊かに生きるためのものであると考える。また、音や音楽のよさを感じると、心の内にある種々のイメージが膨らんでくる。このイメージこそが豊かな心をはぐくんでいるのだと考える。そして、音や音楽をイメージしたり、聴いたり、表現したりするとき、心が揺さぶられる感覚が音楽の楽しさであり、より効果的に音や音楽をイメージしたり、聴いたり、表現したりすることができるようになる方法を見つけていくことが、「音楽の学び」と考える。そうして見つけられた方法を駆使し、導き出されていく音や音楽を味わうことが、音楽における学ぶ楽しさと考える。

3 学ぶ楽しさを実感できる授業改善の手だて

学ぶ楽しさを実感できる授業改善の手だてについては、生徒の実態を考慮した工夫と、学ぶ楽しさを実感している生徒像に迫るための教師の支援を工夫することとした。

生徒の実態からみると、個々の生徒は、一人一人の愛好する音楽をもっており、それを楽しむことはできている。しかし、他と同じ目標で学び、楽しんでいこうとする意欲が乏しいのである。したがって、まずは、目標の意識化から取り組むべきであると考えた。そのために生徒の診断的評価をするとともに、題材等の目標や個々の目標が一目でわかるようなカルテを利用し、自己評価あるいは相互評価しながら学習意欲を向上させる方法を考え実践した。今までにも評価用紙を用いてきたが、なお一層の工夫をしていく必要がある。また、多くの生徒が共感をもって取り組むであろう教材や学習内容等の工夫、そして指導や支援の工夫を、学ぶ楽しさを実感していると仮定した生徒の姿を想像しながら考えた。

4 実践例

昨年度行った校内授業研究会では、学ぶ楽しさを実感できる授業の手だての有効性を確認するため、以下の取り組みを行った。

- 1 題材名 「ア・カペラ」の美しい響きを味わおう
- 2 教材名 リパブリック讃歌
- 3 題材の目標 速度の変化を工夫し、パートの響き合いを感じ取りながら、ア・カペラで美しく表情豊かに混声四部合唱する。

4 題材の要旨

(1) 題材設定の趣旨

第2学年では、ピアノ伴奏を伴う合唱のほかに、混声三部合唱の無伴奏合唱（ア・カペラ）の活動を取り入れ、「ア・カペラ」の純粋な響きや美しく響き合ったときの充実等を味わわせようと努力してきた。生徒は、この「ア・カペラ」活動をとおして、ピアノに頼らず自分で正確な音程をさぐりながらハーモニーを作っていこうとする態度が見られるようになってきた。男子のほとんどが変声期を終了した第3学年の時期において、さらに美しく充実した「ア・カペラ」の響きを味わわせるとともに、主体的に学ぼうとする力を高めたいと考え、本題材を設定した。

(2) 指導方針

本題材を展開するにあたっては、美しく充実した響きで合唱できる混声合唱曲を選ばなければならない。そこで、教材は、混声合唱の充実した響きを得るために混声四部から選定した。また、授業を展開していく中で、「学ぼうとする力を高める」手だて、次の点に重点を置いた。

① 考える楽しさを実感させる

- ・ 学習形態の工夫 → 生徒一人一人が課題意識をもって、より主体的に活動できるように、クラスを二分したグループ学習の形態を取り入れる。
- ・ 自己評価、相互評価 → グループ発表の場を設け、練習の成果を発表し合い互いに聴き合いながら評価させる。

② 感じる楽しさを実感させる。

- ・ 豊かな響きを体感させる → 音楽室から離れ、声のよく響く場で歌唱する。
- ・ 歌い合わせる → 全員で合唱することにより、充実した混声四部合唱の響きを味わわせる。

③ わかる楽しさを実感させる。

- ・ 基礎・基本に気付かせる → 声による美しい響きをつけるための技法等について、具体的な説明をしたり範唱したりする。

5 本時の指導 (2時間目) 2/2

(1) 目標

速度の変化を工夫し、パートの響き合いを感じ取りながら、ア・カペラで美しく表

情豊かに混声四部合唱する。

(2) 観点別評価 (省略)

(3) 展開

具体目標	学 習 活 動	指導上の留意点	評価・方法
音程,呼吸,頭声発声等に気をつけて歌唱することができる。	1 教師の説明を聞き,本時のめあてを確認する。	・黒板に目標を提示するとともに授業内容や流れを説明して本時の学習に対する意識化を図る。	・音程,呼吸,頭声発声等に気をつけて歌唱することができたか。(3)観察,評価用紙
速度の変化を工夫したり,ア・カペラで美しく表情豊かに混声四部合唱する方法を知り,改善していくことができる	2 混声四部合唱「リパブリック讃歌」を全体で合唱する。	・歌唱法を身に付けさせるために,呼吸法,頭声発声等を説明し,つまづいている生徒を支援する。③ ・範唱を聴かせて,正確な音程,各声部の響きのバランス,美しく豊かな響き等に気付かせる。③ ・声がよく響く場所でハーモニーづくりの支援をする。② ・発表を聴き合い自己評価及び相互評価させるとともに改善点があれば,具体的に何をどのように改善していくのかを考える。① ・反省点や指摘されたことが生かされる表現ができるように促す。	・速度の変化を工夫したり,ア・カペラで美しく表情豊かに混声四部合唱する方法を知り,改善していくことができたか。(2)(3)観察,発表および評価用紙
速度の変化を工夫し,パートの響き合いを感じ取りながら,ア・カペラで美しく表情豊かに混声四部合唱することができる。	3 (1)グループによる「リパブリック讃歌」の練習を行う。 (2)互いに聴き合うとともに,改善点があれば意見を交換する。	・教師も合唱に参加して,楽しく合唱できる雰囲気をつくり,歌い合わせる楽しさや,美しい響きのハーモニーを味わわせる。② ・評価用紙に本時の授業の自己評価を記入させるとともに,よりよい音楽を目指すための具体的手だて等も記入させる。①	・速度の変化を工夫し,パートの響き合いを感じ取りながら,ア・カペラで美しく表情豊かに混声四部合唱することができたか。(2)(3)観察,発表および評価用紙
	4 混声四部合唱「リパブリック讃歌」を全体で合唱する。		
	5 本時の授業を振り返り,自己評価をする。		

授業後,上記①～③の目標を達成するために役に立ったと思われる学習活動について,アンケートを実施した。調査対象は1クラス39人,質問項目と数は以下の通りである。

学 習 活 動 の 内 容	①	②	③
呼吸法や頭声発声法などについての先生の説明	12	17	25
先生の範唱	28	12	26
声が響く場所での練習	11	37	19

← 数字は人数。
いくつ答えてもよいことにした結果。

友達との意見交換	17	15	10
先生を交えての合唱	11	21	20
自己評価で合唱を振り返ること	10	7	10

この授業では、学ぼうとする力を高めるために、「考える楽しさ」「感じる楽しさ」「わかる楽しさ」を実感させようと、いくつかの手だてを実践した。

その中で生徒は、本時の目標を意識して考え、教師の範唱を聴いて音楽を感じ、目標が達成されていくこと、つまりわかることへの喜びを味わっていく様子が見られた。また、パートの響き合いを感じ取りながら合唱することにおいては、声が響く場所での練習が効果的であり、他のグループ練習の音が交わらず、自分たちの声がよく響いて聞こえるので、自信をもって楽しく歌唱することができた。

このことから、学習目標達成のためには、学習の場の工夫とともに教師の直接的な指導が大変重要であることがわかる。また、生徒が主体的に音楽活動に取り組むには、小集団学習等の学習形態の工夫とともに、生徒とともに音楽を楽しむ教師の姿が効果的に働いたと考察する。

4 本年度の研究内容

本年度は、学ぶ楽しさを実感できる生徒像に迫るために実践した教師の支援によって得た生徒の声を示すとともに、実践した結果の問題点を確認し、さらに有効な手だてを導くための改善策を探った。

そのために、生徒の実態の中から生徒が考える「学ぶ楽しさ」とは何かを把握し、どのような学習内容・学習形態が必要か、評価の工夫はどうすべきか考えた。

1 生徒の実態に応じた学ぶ楽しさの分析

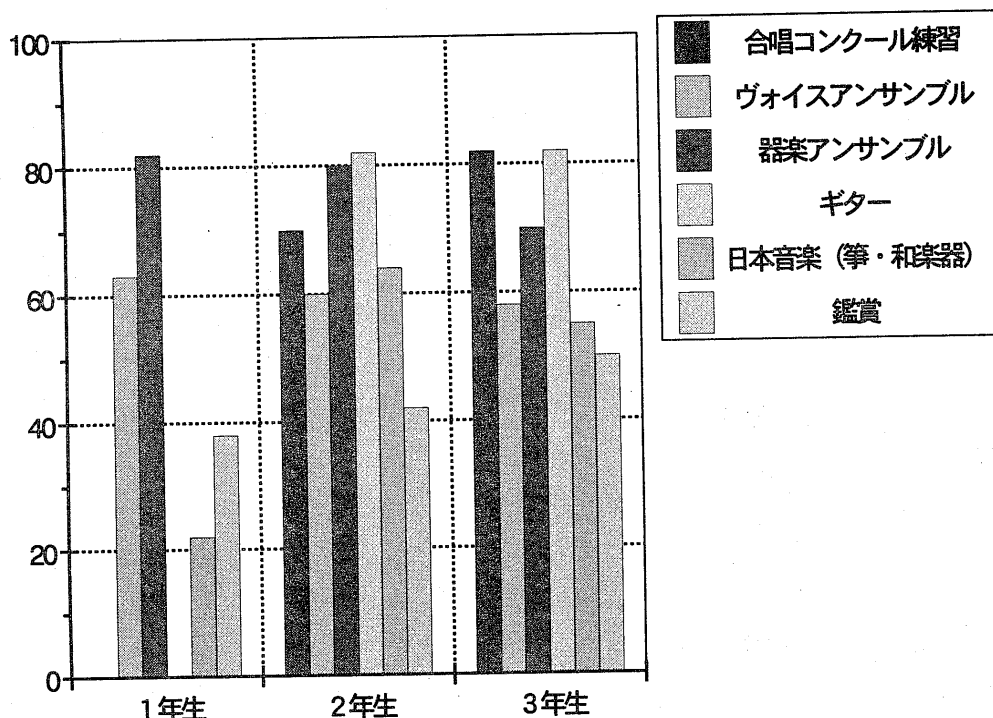
生徒の興味・関心や生徒が学ぶ楽しさを実感するのはどんな学習形態なのかを分析したりするため、生徒の実態調査をした。以下はその結果の一部である。

(1) どんな音楽をよく聴きますか。

	1 年 生	2 年 生	3 年 生
J ポップ	80%	78%	85%
洋 楽	10%	35%	58%
ジャズ	8%	12%	23%
クラシック	35%	43%	51%

調査結果を見ると、ポップス系を好む生徒が多くいると同時に、クラシック音楽に興味をもっているものも少なくない。多くの生徒は、より芸術性の高いものを求めて聴こうとしている。また近年、日本、西洋以外の諸民族の音楽においても興味・関心を示す生徒が多くなってきた。これは、視覚的にも楽しめる教材が増えてきたためと考えられる。

(2) 今までの音楽学習（小学校も含む）で、楽しかった内容はどんなことですか。



生徒が好む学習形態は個々の興味・関心に基づく課題学習と小集団学習であることが分かった。これらの学習を好む理由は、自分たちで自由に活動できることが嬉しいとのことであったが、音楽活動の目標をあまり意識せず、気の合う友だちと和気あいあい気分で活動している場合もあった。

そこで、題材や本時の授業の目標を意識化を図った。そのたうには、活動そのものだけでなく、音楽を学ぶ楽しさをより実感できるような授業を構築しなければならないと考え実践した。また、音楽的なアンサンブル能力が向上するような学習内容や学習形態を多く取り入れていきたいと考えるが、音楽的諸能力の劣る生徒もいるので、十分に配慮しながら授業を進めていくことが必要であると感じた。

2 学ぶ楽しさを実感できる授業改善の手だて

生徒の実態に応じた学ぶ楽しさの分析を参考に、次のような授業展開を考え実践した。

(1) 個に応じた学習課題の設定

指導過程において、そのステップの一つ一つのねらいを焦点化させ、「できる」「わかる」を積み重ねていくことが大切であると考えた。

そこで本年度は、題材ごとに学習する内容をあらかじめ生徒に示し、自分の達成したい目標を決めて学習に臨ませた。そこで、その目標に必要なことは何かを考えさせ、自分でやらなければならない問題を見つけることで、より具体的な学習課題の設定ができ、生徒が主体的に学習に取り組むことができた。

題材名

「新しい仲間と声を合わせて歌おう」

(1年生)

学習活動の内容	生徒の声
<p>・呼吸法や発声などについての説明 ↓ (教師の支援)</p> <p>・わかりやすい説明プリントを配布</p> <p>・楽しく呼吸法や発声練習ができるように工夫</p> <p>・一通りの説明後、自分たちだけで練習</p>	<p>・友達と楽しみながら練習ができた。</p> <p>・腹式呼吸は難しいと思っていたけど、実際に仰向けに寝てみるとすごくよく分かった。自分たちだけで練習した時、友達の姿を見たことで「人間ってすごいな」と思った。</p> <p>・呼吸法練習の「ヨットとばし」「ほこり払い」や響きの練習の「紙ならし」は、おもしろかった。目標を2つにして練習したけど、知らず知らずのうちに、腹式呼吸ができていくかも。</p> <p>・なかなかうまく声が響かなかった時、先生のアドバイスでうまくいった。口の開け方や笑顔で歌うだけで、こんなに自分の声が変わるなんて不思議。目標を決めて練習したので、やりやすかった。</p> <p>・今日の目標は、きれいに「ハモること」。みんなで3つの音を重ねて声を出した時、「ハモってる」と思った。すごくうれしかった。初めて「ハモる」ことができたので感動した。</p>

(3年生の学習プリント)

学習記録用紙 「日本歌曲の優美さを感じ取ろう」

3年(4)組(男) 氏名 ()

◆教材名 「花」

◆学習内容・・・2声部の旋律の美しさを感じ取って合唱する

<第1次> 本時の目標 花を聴きながら、花を歌う。

学習内容 ①花を見ながら「花」を聴き、歌詞や旋律の美しさを確認する。
②2声部の旋律に耳を集中し、主眼線を大きな声で歌う。
③1番～3番まで旋律の通っている部分を練習する。
④副歌部分を大きな声で歌う。
⑤クラスを4グループ(男女混合)に分け、演奏の仕方を考え、合唱練習をする。(練習場所も決める)

<第2次> 本時の目標 花を聴きながら、花を歌う。

学習内容 ①ヴォイストレーニングをし、発声や共鳴について知る。
②二部合唱による「花」を聴き、音程を確認する。
③各グループごとに合唱練習をする。
④グループごとに考えた演奏の仕方を発表し合う。
⑤一斉練習的な演奏の仕方を決め、全員で合唱する。

自己評価 ①音程に耳を付けて、大きな声で歌えた。 A B C
②グループでの話し合いに積極的に参加した。 A B C
③ヴォイストレーニングに積極的に取り組んだ。 A B C
④グループ発表に真剣に取り組んだ。 A B C
⑤効果的な演奏ができるように工夫して歌った。 A B C
⑥授業に積極的に取り組んだ。 A B C

私は今日とても楽しかったです。花を聴きながら、花を歌うことができました。友達と協力して練習することができました。また、先生からアドバイスをもらって、もっと上手に歌えるようになりました。

今日の学習で、花の曲を聴きながら、花を歌うことができました。友達と協力して練習することができました。また、先生からアドバイスをもらって、もっと上手に歌えるようになりました。

学習記録用紙 「日本歌曲の優美さを感じ取ろう」

3年(4)組(男) 氏名 ()

◆教材名 「花」

◆学習内容・・・2声部の旋律の美しさを感じ取って合唱する

<第1次> 本時の目標 花を聴きながら、花を歌う。

学習内容 ①花を見ながら「花」を聴き、歌詞や旋律の美しさを確認する。
②2声部の旋律に耳を集中し、主眼線を大きな声で歌う。
③1番～3番まで旋律の通っている部分を練習する。
④副歌部分を大きな声で歌う。
⑤クラスを4グループ(男女混合)に分け、演奏の仕方考え、合唱練習をする。(練習場所も決める)

<第2次> 本時の目標 花を聴きながら、花を歌う。

学習内容 ①ヴォイストレーニングをし、発声や共鳴について知る。
②二部合唱による「花」を聴き、音程を確認する。
③各グループごとに合唱練習をする。
④グループごとに考えた演奏の仕方を発表し合う。
⑤一斉練習的な演奏の仕方を決め、全員で合唱する。

自己評価 ①音程に耳を付けて、大きな声で歌えた。 A B C
②グループでの話し合いに積極的に参加した。 A B C
③ヴォイストレーニングに積極的に取り組んだ。 A B C
④グループ発表に真剣に取り組んだ。 A B C
⑤効果的な演奏ができるように工夫して歌った。 A B C
⑥授業に積極的に取り組んだ。 A B C

私は今日とても楽しかったです。花を聴きながら、花を歌うことができました。友達と協力して練習することができました。また、先生からアドバイスをもらって、もっと上手に歌えるようになりました。

今日の学習で、花の曲を聴きながら、花を歌うことができました。友達と協力して練習することができました。また、先生からアドバイスをもらって、もっと上手に歌えるようになりました。

学習記録用紙 「日本歌曲の優美さを感じ取ろう」

3年(4)組(男) 氏名 ()

◆教材名 「花」

◆学習内容・・・2声部の旋律の美しさを感じ取って合唱する

<第1次> 本時の目標 花を聴きながら、花を歌う。

学習内容 ①花を見ながら「花」を聴き、歌詞や旋律の美しさを確認する。
②2声部の旋律に耳を集中し、主眼線を大きな声で歌う。
③1番～3番まで旋律の通っている部分を練習する。
④副歌部分を大きな声で歌う。
⑤クラスを4グループ(男女混合)に分け、演奏の仕方考え、合唱練習をする。(練習場所も決める)

<第2次> 本時の目標 花を聴きながら、花を歌う。

学習内容 ①ヴォイストレーニングをし、発声や共鳴について知る。
②二部合唱による「花」を聴き、音程を確認する。
③各グループごとに合唱練習をする。
④グループごとに考えた演奏の仕方を発表し合う。
⑤一斉練習的な演奏の仕方を決め、全員で合唱する。

自己評価 ①音程に耳を付けて、大きな声で歌えた。 A B C
②グループでの話し合いに積極的に参加した。 A B C
③ヴォイストレーニングに積極的に取り組んだ。 A B C
④グループ発表に真剣に取り組んだ。 A B C
⑤効果的な演奏ができるように工夫して歌った。 A B C
⑥授業に積極的に取り組んだ。 A B C

私は今日とても楽しかったです。花を聴きながら、花を歌うことができました。友達と協力して練習することができました。また、先生からアドバイスをもらって、もっと上手に歌えるようになりました。

今日の学習で、花の曲を聴きながら、花を歌うことができました。友達と協力して練習することができました。また、先生からアドバイスをもらって、もっと上手に歌えるようになりました。

(2) 感動体験の共有

音楽の幅広い活動の中には、知的なものと感覚的なものの調和や困難を乗り越えていく意思と全体の統一という人間らしい心をはぐくむ基盤が含まれている。そこで、個々の発達段階に応じた音楽活動における、「感動体験の共有」という音楽科固有の価値の実現を通して、「心の教育」に深く関与していきたいと考えた。授業実践から、この感動体験の共有が、学ぶ楽しさを実感できることへとつながった考える。

題材名 「パートの響き合いを感じ取りながら、ア・カペラで
美しく表情豊かに混声4部合唱しよう」 (3年生)

学習活動の内容	生徒の声
・声が響く場所での練習と合唱 ↓ (教師の支援)	・気持ちよく声が出せ、お互いの声が溶け合う感覚がうれしかった。 ・先生と一緒に歌うことで、いままでにない合唱の楽しさを味わった。
・響く場所の選定	・ア・カペラのすごさを感じ、感動した。また、もっと歌いたいという気持ちになった。
・響きをつくる技能の説明	・声がよく響いて聴こえ、気持ちよくなった。自分たちがうまくなったと感じ、誰かに聴いてもらいたいと思った。
・範唱	
・生徒と一緒に歌う	

(3) 個を生かし、互いに認め合う場の設定

中学生というこの時期は、自我の芽生えと同時に人の目に映る自分の姿が気になるもので、自分を表現したりすることに恥ずかしさを感じる生徒も多い。そこで、友達の前で明らかな失敗をさせないように、誰もが取り組める手だてを幾つか用意したり、過去の学習の上に積み重ねる課題を避けるようにしている。それは、生徒一人一人が今ある力で取り組めるものなら、自分の力を発揮でき、そこに個性を表すことができると考えているからだ。自分がかげがえのない個であることを示したがる時期であるため、時には答えや成果を要求するのではなく、生徒自身が思ったこと、考えたことが出せる部分を含めた活動を取り入れた。また、アンケート調査結果から、本校生徒に欠けている部分である、互いに協力し合い、互いに認め合う活動をできるだけたくさんの題材で取り扱った。

題材名 「歌唱力を高め、新しい仲間と声合わせて歌おう」 (2年生)

学習活動の内容	生徒の声
・パート練習 ↓ (教師の支援)	・最初はどうか心配だったけど、リーダーに協力しようとする人の声でまとまることができた。1年生の時には、先生に言われてからしか真剣にパート練習できなかったけど、
・リーダーに練習す	「2年生になったんだな」と感じた。

る時に気をつけたい ことを説明 ・一人ではいい合唱 にならないこと、協 力することの意味を 全員に助言	・「もっと、声だそう」とリーダーが言ってくれたので、大 きな声で歌うことができた。やっぱり、リーダーは必要だと思 った。 ・なんとなくパート練習で歌ってきたが、今日の練習は自分 で目標をたてたことで、しっかりと歌えた。また、普段ふざ けている友達が一生懸命歌っていて、友達の違う一面が見ら れてた。それを見て、自分もがんばることができた。
・表現の工夫を出し 合いながら、混声3 部合唱 ↓ (教師の支援) ・自由に意見を出し 合うことがよりよい 合唱につながるこ とと助言 ・自分たちだけの合 唱を創ることに意味 があることと助言	・みんなで意見を出し合う活動では、たくさんの意見が出た。 いままでの音楽の授業では、意見があまりでなかったことも あったが、「みんなだけの合唱を創ろう」と言っていた先生の 話があったからだと思う。それにしても、みんなで意見を出 し合ってから練習後、こんなに合唱が変わるとは・・・。 ・表現を工夫するとき、正反対の意見が出され、どうなるか と思った。でも、考えをみんなにわかりやすく伝えた2人は すごいなと思った。自分も次はがんばろう。 ・合唱コンクールの練習以外で、こんなにまとまった合唱は 初めてだった。やっぱり、それぞれの意見を出し合いながら、 本当に必要な意見にまとまったからかな。みんな、よくがん ばった。もちろん、自分が一番がんばった。

(4) 評価の工夫

本年度は、各題材終了ごとに自己評価させている。それは、どのような学習をしたのかを振り返り、自分がどのように授業に取り組んだかを評価することで、自己の変容に気付くとともに、自己を高めようとする意欲につながると考えているからだ。また、この自己評価は各自の音楽学習ノートに貼り、いつでもこれまでの音楽学習が振り返ることができるように改善した。また、発表を伴う題材では相互評価を取り入れた。曲を創り上げる過程である中間発表を含め、自分たち以外の人に聴いてもらうことで、意欲が増したり、助言によってよりよい音楽へと変わることもあり、成就感が得られた。

題材名 「パートの響き合いを感じ取りながら、ア・カペラで
美しく表情豊かに混声4部合唱をする」 (3年生)

学習活動の内容	生徒の声
・友達との意見交換 ↓ (教師の支援) ・一人一人の意見を 大切にすることを確 認	・自分たちだけでは気付かないことが分かり、注意して歌う ことができた。 ・他のグループの速さの工夫を参考にすることができ、その 後の練習では自分たちだけの表現を工夫しようという気持ち になった。 ・たくさんの意見が他のグループから出たけれど、この後ど

・よりよい合唱にするために必要なことは何かをしっかりと考えると助言	うするかをグループで話し合っていた時、先生のアドバイスで全部の意見でなく、自分たちでもう一度考えていけばいいことが分かった。全体合唱ではいい合唱ができたと思う。
-----------------------------------	--

題材名 「曲の表現している情景を想像しよう」 (1年生)

学習活動の内容	生徒の声
<ul style="list-style-type: none"> ・一部分を聴き、想像したことを個人で記入 ↓ (教師の支援) ・答えなどない、自分で想像することが大切と助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・題名から想像することは、今までやったことがなかったが、自由に頭の中に思い描いたことを書いて、楽しかった。 ・パッと情景が思い浮かぶことがあり、自分でびっくりした。 ・先生が「答えがない」と言ってくれたので、意外にすんなり想像できて、自分でもよくできたと思う。 ・誰にも自分が書いたものを読まれないと先生が言ってくれたので、思った通りに書くことができた。楽しかったし、よくできた。
<ul style="list-style-type: none"> ・個人で記入したものを持ち寄り、グループで意見交換 ↓ (教師の支援) ・一人一人の意見を聞くことで、自分以外の人を考えていたことを知ることや互いの意見を認めることは大切であると助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いて、ふと外を見た時、「これだ!」と感じたことを、友達が「これ、いい!」と言ってくれたことがうれしかった。 ・他の人の意見を聞いてみると、「なるほど!」と思う意見があり、参考になった。 ・自分たちのグループ以外の意見を聞くことで、みんなそれぞれ考えていることが違うんだなと思った。「みんな違っていい、それがいい」と言っていた先生の言葉の意味がよくわかった。 ・もっといろいろな曲を聴いて、みんなで意見交換できたらいいなと思った。

5 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

本研究では、学ぶ楽しさを実感しながら、生涯わたって音楽を愛好していこうとする生徒の育成を目指し、個々の生徒が楽しく音楽を学ぶことができる授業改善を目指した。

学ぶ楽しさを実感できる授業改善の手だての試行では、「個に応じた学習課題の設定」「感動体験の共有」「個を生かし、互いに認め合う場の設定」「評価の工夫」を考え実践してきた。

授業を展開する中で、今まで知らなかったことや考えもしなかったことに気付かせ、「個

に応じた学習課題を設定」し、課題意識を持たせることは、学ぶ楽しさを実感させ、学習意欲を高めるために有効であると改めて確認した。また、感性に訴えかけられたりすることで得られる「感動体験の共有」は、学習活動が意欲的になるとともに、学ぶ楽しさが実感できた。さらに、「個を生かし、互いに認め合う場」を設定し、自己評価や相互評価など「評価の工夫」をすることで、生徒一人一人の良いところや優れているところ、相手の立場になって考えられるところや共感したりすることができるなどを観察することができた。これによって、生徒一人一人に対応した指導方法をとることができ、学ぶ楽しさを実感できる授業改善による生徒の変容を見ることができた。

これらの成果から、生徒の学習意欲を喚起することができる創意工夫のある学習内容や学習指導が、音楽の学びに対する期待感を継続させ、生徒の学ぶ楽しさを促進させていくのだと考える。また、学習内容以外のことで、学ぶ楽しさを促進させる方法として、学びを促すための環境づくりが挙げられる。生徒一人一人が心地よく活動できるための雰囲気づくりが大切である。生徒と接する際の会話や説明の内容・方法等を工夫することによって、音楽の授業への楽しさや期待感を高めたり、生徒への励ましや認め、疑問への対応等、教師の支援によって良好な対人関係づくりをすることができると考。こうした環境を整えることによって、心地よく音や音楽を楽しむ雰囲気ができ、また、生き生きとした主体的な活動ができると改めて認識できた。

2 今後の課題

今後は、授業時数が少ない中で、いかに効果的な方法や内容を研究を実践いくかを考え、学ぶ楽しさを実感できる授業改善を進め、個を生かし、生徒の可能性を引き出すための評価の工夫を検討していきたいと考えている。学ぶ楽しさを実感できる内容や方法がとれていたか、適切な指導ができていたかなど、教師自身も自己評価をしながら研究を進めていきたい。

【参考・引用文献】

- ・宇都宮大学教育学部附属中学校編：「第41回 公開研究発表会発表要項」，1996年
- ・宇都宮大学教育学部附属中学校編：「第47回 公開研究発表会発表要項」，2002年
- ・中等科音楽教育研究会編：「新版 中等科音楽教育法」，2002年
- ・文部省編：「中学校学習指導要領（平成10年12月 解説 一音楽編一）」，東京書籍，1999年